

# 都市構造から見たスポーツ施設立地のあり方

## —前橋市を事例に—

701-003 新井規之 指導教官 戸所 隆

### The Direction to The Location of the Sport Institution Considered from City Structure

Noriyuki ARAI

#### 1. はじめに

現代社会においてスポーツは、生涯にわたり健康的で明るく、活力ある生活を送り、社会全体の活力維持に重要視されている。そのため、スポーツ施設の充実が地域政策の重要な課題になってきた。しかし、スポーツ施設建設には、大規模な場所と投資、維持管理費が必要である。財政難の中で自立を求められる地方自治体にとって大規模スポーツ施設のあり方が問われている。他方で公共スポーツ施設を拠点としたスポーツクラブは沢山あるが各自の興味・目的に応じてスポーツクラブに親しめるようになっているとは言いがたい。

スポーツに関するハード、ソフト両面を改善し、国民のだれもがスポーツに親しむことができる社会環境を実現するためには、多世代、多様な技術レベル、多様な興味・目的の人々が参加できる利用システムの構築が求められる。

スポーツ政策は、学校施設中心のスポーツ環境の整備という点に大きな成果をあげてきたが、ハード整備中心のスポーツ政策には限界が見え始めている。

現代人のスポーツ欲求には、生涯スポーツのような性格のものが多くなっている。しかし、実際の施設整備方針は競技スポーツの振興が中心で、多様化する国民の生涯スポーツ要求にこたえていない。保健体育審議会は、これからのスポーツ活動の場所を、既存のスポーツ施設と日常生活圏における学校体育施設の活用を答申している。しかし施設を管理する面から、これらも上手く機能していない。そのため、これからのスポーツ施設整備のあり方を考えた場合、国民の声を、また地域の実状をどのように把握し、政策に反映させているかが重要となる。

以上から、今日のスポーツ施設立地のあり方を生活者の視点に立って見る必要がある。それは同時に都市計画などまちづくりの方向性ともかかわる。本稿はこうした視点から群馬県前橋市を研究対象地域とし、地方都市における都市構造から見たスポーツ施設立地のあり方について考察する。

## 2. 研究地域概観

研究対象地域の群馬県前橋市は、県庁を有する総合機能都市である。都市構造は、道路や鉄道に沿って構成された市街地空間とそれを取り巻く田園空間という構造を示してきたが、現在は周辺地域の市街化ニーズの高まりとともに、田園空間の中に市街地が形成されてきている。

また前橋市はスポーツを通じて、地域振興を図ろうと「水と緑と健康都市宣言」を平成元年3月27日に発表した。市内にはあらゆる種類の大規模なスポーツ大会を行う施設が揃っており、市内各地区にも市営のスポーツ施設が点在している。

## 3. スポーツ施設環境のあるべき姿

### (1) 都市計画からみたスポーツ施設

都市計画は、その都市の域内での土地利用計画や規制を決めることにより、建物開発を調整し、都市としてのあるべき指針を示すものであり、その中にはスポーツ施設も含まれる。現代の地方都市では、都市計画の定める土地利用計画・規制が「住民主導の個性的で総合的なシステム」になる必要がある。

現在社会環境も変化していると同様に、スポーツも求められているものが変化しているといえ、スポーツ施設は、維持・運営・管理に莫大な費用がかかる。

有効利用には、コスト意識を持ち利用者の視点をもった経営が必要になる。

効率的な計画策定のためには構想をつくり上げ、基本計画を作成後も、採算計画の運営・管理プロセスを定める必要がある。

### (2) 国民の生活・社会状況におけるスポーツの役割

社会・生活状況を考えると心の豊かさが一層重視される傾向にある。技術革新や産業構造の変化は一層の余暇時間の増大を予想され、人々はライフスタイルを多様化させつつある。一方で心身両面にわたる健康上の問題が顕在化してきている。その結果、国民医療費は30兆円を超えるものになっている。<sup>1</sup>この危機的状況の打開するには、これまでの医療のあり方を改め、生活の中に健康維持・管理を積極的に取り入れた医療予防にシフトしていくことが求められる。

健康目的や社会全体の活力維持などこれらの効果を得るために、スポーツ環境充実が必要である。また、これら実践スポーツ、「するスポーツ」がもたらす実利的な側面以外に、国際規模の大会等

## 都市構造から見たスポーツ施設立地のあり方

の「みるスポーツ」の振興にも大きな期待ができる。スポーツ観戦を通じてトップレベルのスポーツ選手の活躍に触れることは一般の人々の日常的なスポーツ参加を促すきっかけにもなり、または大きな集客イベントをつくり上げる一つの魅力にもなりうる。

### (3) これからのスポーツ施設整備理念

現在のスポーツ施設環境は利用者にとっては時間帯や利用方法の面に関して閉鎖的であり、施設があっても実際は使えなかったたりと不便さを感じているといえる。利用者の視点を踏まえて施設整備が行われてはいることが理解できる。一方でそれらの諸条件を改善することにより、スポーツ活動を行いたいという潜在的なスポーツ人口も存在していることも伺える。以上のように考えると利用者本位の環境整備と利用システムの構築は急務である。

既存の公共スポーツ施設や小中学校の利用時間・方法を拡大・簡便化することによって、スポーツが気軽にだれでも行える環境をつくることは可能である。また、既存施設を効果的に活用し、利用者を増加させることにより、ランニングコストや利用者ニーズ要件の把握の問題も改善することができると考えられる。スポーツ施設を、そこに住む地域住民のだれもが興味や目的に応じてスポーツに親しめるようにすべきなのである。

大規模スポーツ施設をもつ都市において、まず都市の理念があり、スポーツ施設整備理念があり、それらを踏まえた上で都市計画を作成すべきである。計画から実行への一貫性や、利用者の視点を政策に反映することがその際に必須である。

## 4. 前橋市のスポーツ施設のあるべき姿

### (1) 前橋市スポーツ施設の立地・利用の現状と課題

前橋市の公共スポーツ施設は市営・県営合計15箇所にわたり、地域住民がスポーツ活動を行える環境が整っている。スポーツ施設整備については、「生活圏内にスポーツ施設を充実すること」が基本方針として考えられ、前橋市体育協会によって進められてきた。<sup>2</sup>

しかし、実際の施設整備は、施設の管轄が別のために、同じ市域の中に、同じ用途・目的の施設が存在しているということがあげられる。

H12年のスポーツ施設を利用した年間延べ人数は、272万人で、北部地域のスポーツ施設に利用者が偏っている。毎年全国規模の大会が数多く行われている県総合スポーツセンター、敷島公園、グリンドームには、年間180万人近くが訪れる。一方で、その他の地域に立地している市営のスポーツ施設の利用者は少ない。用途や面積が同じでも、地域によって利用者にはばらつきがあることが読み取れる。

現在の利用者像を見る限り、昭和50年代に出された方針である、「生活圏内にスポーツ施設を充実すること」は達成されているとはいいきれない。現状の生活圏は過去と比べ、大きく変化してお

り、利用者にとっては大きな問題である。そこに、生活圏に対応したスポーツ施設整備に関する新たな施策を考える必要性がある。

#### (2) するスポーツから見た施設立地

「するスポーツ」は、現代社会の中で、健康や活力の維持という重要な役割を果たしている。その活動場所としては、公共のスポーツ施設や学校の体育施設があげられる。平成12年現在、前橋市内の小中学校における学校開放率は、100%である。しかし前橋市民の学校開放の利用状況は、4割未満と少なく、利用者の需要を満たせるような開放にはなっていないのが実状である。開放する際の利用システムの簡便化が課題としてあげられる。

ここで、整理すべき点は、利用者・地域住民の視点の重要性である。施設は利用するためのものであり、その利用主体は住民なのである。

#### (3) みるスポーツから見た施設立地

前橋市では大規模スポーツイベントが毎年数多く行われている。また、殆どのスポーツの公式大会を年間を通して行える施設が整っており、各年代に応じたスポーツイベントも行われ、群馬県のスポーツの中心核を担っている。<sup>3</sup>

これら大規模なスポーツイベントの意見、「みるスポーツ」の需要があることは前橋市民のアンケートからもわかる。

しかし、「みるスポーツ」を実践するためには、様々な制約条件が存在する。

ここで踏まえるべき点は、既存施設の効果的な活用であり、利用者が使いやすい状態をいかにつくり、いかに集客ができるような魅力を発信するかである。

#### (4) 効果的な利用につながるシステム

地域住民がスポーツ施設を利用する時は一般的に次の流れが考えられる。

- |           |               |
|-----------|---------------|
| ①施設状況を知る  | ④交通手段を使い現地へ行く |
| ②利用時間を決める | ⑤スポーツ活動を行う    |
| ③施設に申し込む  |               |

この①～⑤までが施設利用サイクルである。効率的に利用することは、このサイクルをどれだけ簡便化するかにかかっているといえる。

前橋市には情報端末システム「まえばしネット」というものがあり、内容としては公共施設情報を、コンピュータで市民に提供するシステムだといえる。以下はその内容の詳細である。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| ①自宅から施設情報を得られる  | ③申込み・キャンセルが可能 |
| ②複数の施設状況を一度に認知可 | ④登録無料         |

## 都市構造から見たスポーツ施設立地のあり方

このシステムを、市域の全ての施設や学校体育施設にも対応可能にし、申込み手続きを簡便化等、機能付加することによって、「利用者本位の既存施設の効率的活用システム」になると考えられる。施設情報を一つにまとめ、把握することによって「するスポーツ」「みるスポーツ」と施設の持つ特性と、立地条件などに影響を及ぼすそれぞれの地域特性を踏まえ、都市計画や整備方針作成に役立てる。その情報を基に利用客は、用途・目的に応じてスポーツ活動を実施しやすい環境を得るとも考えられる。

活動人数の状態を踏まえ、施設ごとの用途・目的を明確にし、情報提供システムで地域に情報発信して、利用の効率化を図ることが、前橋市のスポーツ施設空間での特色を活かした今後の地域整備のひとつの方針になると考えられる。

実施するためには、スポーツ施設だけではなく、都市全体の課題としてとらえ、理念体系化し、他の諸分野との整合性を考えていくことが必須である。

## 5. 利用者から見た施設立地のあり方

### (1) 利用方法の合理化・効率化

本稿では、スポーツ施設整備の事例研究として前橋市を取上げ、利用者の視点から実際の利用までの過程を合理化・効率化するために分析を行った。

全体的にみると、実際の施設運営がつくる側の視点になってため、利用者の視点としては決して合理的なシステムになっていないといえる。

大規模スポーツイベントのために莫大な投資と土地をもって作り上げられた施設の問題を抱えている地域は数多くある。これらの地域の解決策は視点の変革と利用方法の合理化と効率化にあるとあってよいだろう。

大規模スポーツ施設は活用方法により、地域における一つの魅力として成立させることにつながる。スポーツ施設を都市の魅力として考えるためには、その都市のもつ理念の一部として位置付けなければならない。大切なことはその施策が理念にもとづいた施策かどうかである。スポーツ施設には特性があり、「みるスポーツ」と「するスポーツ」に対応する施設ということで分類できる。

「みるスポーツ」の理念は「たくさんの利用客に観てもらうための方針」で、「するスポーツ」の理念は「だれもが使いやすいしくみづくり」である。

以上のように施設のもつ目的・特性・機能を吟味し、発揮させるためには、また都市の1機能としてはどんな利用方法が望ましいのかを考える必要がある。

### (2) 都市構造から見たスポーツ施設立地のあり方

これからの時代には、効率的な都市施設整備が求められる。<sup>4</sup>スポーツ施設もまた都市施設であ

新 井 規 之

る。施設の持つ役割が個別に存在し、機能し相互に補完し合わなければならないため、スポーツ施設も機能する必要のある役割が本来備わっていると、都市構造を視野に入れた場合、考える必要がある。

利用者を増やすためには、何のための施設かを徹底的に吟味し、利用者が利用しやすい環境をつくり、その根本的なものを都市は見つめなおす必要がある。

また、スポーツ施設を都市の一つの魅力として活用するならば、アクセス面の合理化は欠かせないであろう。集客をねらうためには、効率的な整備方針を、そして活動しやすくするためには公平的な整備方針をたてたうえでそれぞれの立地を考え、都市構造の中で位置付けていく必要がある。つまり、まず立地場所ありきではなく、まず整備方針ありきなのである。そして、整備方針は立地条件を充分踏まえた上で、その条件を変えていくものであることが望ましい。

本稿のキーワードである「だれもが いつでも いつまでも」は、施設利用者側に立った視点として整備方針の根本に据えてもらいたいコンセプトである。財政面で大きな問題となりうるスポーツ施設。その立地条件にどれだけ可能性を見出せ、事態を好転させていくかは、施策側がどこまで、利用者のニーズに近づけるかにかかっているといえるのではないだろうか。

注

- 
- 1 財団法人厚生統計協会「国民衛生の動向 1999
  - 2 「前橋市体育史 第2巻 前橋市体育市座談会」1997
  - 3 「前橋体育の歩み」前橋市教育委員会 平成13年度事業報告 2001
  - 4 小林潔司「人口減少時代における都市施設整備の課題」都市計画, No.199.1996